

人権

～みんなが
幸せになるために～
益城町人権・同和教育推進協議会

Vol.539 「誰もが自分らしく輝けるまちへ」

春 らんまんの4月。進学や就職、転勤など多くの人が新たな一歩を踏み出す季節となりました。また、新たに益城町の住人になられた人もいらっしゃるでしょう。

益城町では、誰もが自分らしく希望を持って安心して暮らせる場所であり続けるために、大切にしていることがあります。それは、「町民一人一人が互いの人権を尊重し合う社会づくり」です。

差別は決して「特別な場面」で起こるものではありません。日常の何気ない言葉や思い込みの中に潜んでいることがあります。そしてそれは、誰かの心を深く傷つけることがあります。

では、私たちに何ができるのでしょうか。相手

の立場や気持ちを想像したり、違いを受け入れ互いに認め合ったりするなど、日々の小さな心掛けが、互いの人権を守り育む確かな一歩となります。

町では、差別解消に向けた教育や啓発活動、相談体制の充実を総合的に進めています。また、部落差別をはじめとする、あらゆる差別をなくし、人権擁護の意識を高め、平和で明るい地域社会の実現を目指し、令和3年9月に、「益城町部落差別等をなくし人権を擁護する条例」を施行しています。

この春、震災から10年を迎えます。震災を乗り越え、支え合ってきた益城町だからこそ、その絆をさらに深め、誰もが自分らしく輝けるまちを築いていきましょう。

人権についての電話による相談窓口（平日のみ）

● **いじめについて**
益城町いじめ電話相談 ☎ 286-1770

● **さまざまな人権問題**
益城町福祉課人権対策係 ☎ 289-1400

同和教育、障がい者・女性・子どもの人権問題、人権に関する法律相談など、各種人権に関する相談窓口は、町ホームページ「人権についての電話による相談窓口」をご確認ください。



防災行政無線

防災行政無線で放送された内容が電話で確認できます。
自動応答電話 ☎ 286-0888

■ 御船警察署 危機管理課

☎ 2882・1110
☎ 2866・3210

令和8年 町内の 事故・事件の発生状況

事故・犯罪区分	2月中	累計
人身事故	4	14
物損事故	61	134
空き巣	0	0
自販機狙い	0	0
万引き	1	3
オートバイ盗	0	0
自転車盗	1	2
車上狙い	0	0

■ 益城西原消防署

☎ 286・2119

令和8年 町内の火災等発生状況

発生区分	2月中	累計
建物	0	0
車両	0	0
林野	0	1
その他	1	1
警戒出動	1	2
救急出動	146	306
救助出動	1	1

◆ **交通安全ワンポイント**
春の交通安全運動が始まります

■ **運動の目的**
この運動は、町民一人一人の交通安全意識を高め、交通ルールの順守と交通マナーの向上を促進することを目的としています。また、安全で安心な人に優しい交通環境の改善に向けた取り組みを推進し、交通事故防止を目指します。

■ **実施期間**
4月6日(月)～15日(水)

■ **交通事故ゼロを目指す日**
4月10日(金)

■ **運動の重点目標**
・通学路・生活道路における、子どもをはじめとする歩行者の安全確保
・「ながらスマホ」の根絶、歩行者優先などの安全運転意識の向上
・自転車や電動キックボード利用者による、交通ルールの理解と順守の徹底

◆ **防火と救急**
熊本地震から10年―教訓を未来へ

平成28年の熊本地震から、今年で10年の節目を迎えます。益城町では多くの人々が不安な日々を過ごしながらも、地域一丸となって復興に取り組んでこられました。私たち消防職員も、当時の現場で感じた「支え合いの力」の大きさを今も忘れていません。

しかし、10年という歳月は災害の記憶を薄れさせます。だからこそ今一度、家庭や地域での備えを見直すことが大切です。家具の固定、防災用品の確認、家族での避難場所の共有など、日頃の小さな準備が大きな被害を防ぎます。

また、地域のつながりは災害時に大きな力となります。顔の見える関係づくりや防災訓練への参加は、いざという時の助け合いにつながります。

10年は新たなスタートラインです。地震の教訓を未来の世代へ伝え、共に災害に強い益城町を作っていきましょう。

益城の文芸

投稿は①氏名(PNの場合はふりがなも)②住所③電話番号④作品を明記し、

メール(mashiki890@gmail.com)、はがきで役場広報係に送ってください。締切は毎月10日(必着)。

短歌

末武侑子 選

畑おおふ雑草なれど仏の座愛らしき花を
風の群揺らす 安永 守住 孝子
三百年命つなぎし梅の木の幹ふとくして
花の可憐さ 馬水 篠原 晴美
苔むせる旧家の梅の三分咲き石仏の前コ
イン二枚 惣領 甲斐 道夫
散歩道進むたびごと花咲きて気づけば杖
の重さ消えをり 広崎 大原 郁
陽だまりであったか色のストールをつつくく
編んで時間をわすれる 木山 赤城 香織
雑草と呼びし花にも名はあると妻はスマ
ホに撮りて調ぶる 惣領 垣野 幸一
習ひたての七つの孫と連弾す指もつれつつ
「ネコふんじやった」 木山 本田 龍子
夜も更け船場狸の腹鼓城下の街は静かに
眠る 馬水 増岡 伸禧
四車線復興の道見えしとも心の傷はなお
時を待つ 惣領 清水 宏
地震の後行方も知らぬ友のこと思い続け
ていづこの地にか 広崎 日野ヒロ子
祖母の声聞こゆるごとく笹りんどう丸に
木瓜なる我が家の紋よ 馬水 増田 訓子

俳句川柳 小春選

鉄瓶に湯たぎる音や春浅し 古閑 今村 恒心
触れてみるこんなところに露の臺 広崎 大原 郁
噴煙に届くか阿蘇の野火猛る 福富 井手 悦子
荒れ畑に花を惜しまず董どち 惣領 阪口由美子
ひざまずく今年も蕨生ひたると 惣領 野々口トミ子
啓蟄や蜥蜴と眼の合ふ庭の隅 木山 本田 龍子
施設にも春を届けむミモザ買ふ 安永 福山 友子
亡き夫に掲ぐるビール春の雲 小池 本田 賀子
三世五人の女子旅春めけり 福富 井手 悦子
春先は灰汁もの食えと祖母の言 広崎 大石 高義
水温む元氣コルを高らかに 安永 福山 友子